

科目責任者 小山 清隆 (副学長)

■ 教育目的

薬学は時代の変遷とともに受け持つ分野が拡大している。また、社会の要請に従って変化して行く。

薬学は『くすり』についての総合科学である。新しい『くすり』をつくる創薬科学、『くすり』の作用と生体の機能を解き明かす薬学独自の生命科学、そして病気の予防、保健などに深いかかわりをもつ衛生薬学、さらに医療の現場で『くすり』を適性を使用することを学ぶ医療薬学に至るまで、薬学は幅広く奥の深いものである。

本講義は薬学部に入學した学生に、「薬学とは何か」を伝える導入教育である。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-②、YD-⑤】

■ 学習到達目標

「薬学とは何か」を命題としてもち、充実した学生生活を送るために、薬学の目指す学問領域、薬剤師および薬学研究者の職域とその任務について概要を理解し、体験（見学）を通して薬学へのモチベーションを高める。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：授業内容のキーワードを調べてみる。(30分以上)

復習：講義で興味を持ったことや気になったことなどをインターネットなどで積極的に調べ、「薬学とは何か」を探り出してみよう。(30分以上)

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	薬学とは何か：薬学教育	大学で何を学ぶか、薬学と薬剤師	A(1)-①②
2	薬学の新しい動き	薬学の歴史、医薬品の役割、薬剤師の使命	A(1)-①②
3	早期体験学習	オリエンテーション	
4	薬剤師の現在・未来	医薬分業、医療と倫理、薬剤師の使命、薬剤師への道	A(1)-③④ A(2)-①②③④
5	薬学と社会	薬学を取り巻く法律と制度、社会保障制度	B(1)-① B(2)-①②③ B(3)-①②
6	創薬の現在、過去、未来	医薬品とは何か、近代創薬の歴史、医薬品の開発と創薬研究の最前線	A(1)-③④ A(2)-①②③④
7	製薬企業における薬剤師	製薬企業の業種、特に薬剤師が活躍している業種	A(1)-③④ A(2)-①②③④
8	健康薬学 1	麻薬等薬物問題と麻薬取締官の役割	D2(1)-①
9	健康薬学 2	生活の中の食品衛生	D1(3)-①②③ D2(1)-①②③
10	薬の効果と個人差 薬の相互作用	薬の体内運命と成長・加齢・疾病の関係、薬の作用メカニズム、薬の作用が他の薬によって変わる理由	E1(1)-①、E4
11	医療と薬剤師 1	多様な社会ニーズに応える将来の薬剤師のあり方	E1(1)-①、E4
12	医療と薬剤師 2	過去の薬害事例の検証 副作用被害の予防・軽減と薬剤師の役割	A(5)-①④ E1(1)-①、E4
13	医療と薬剤師 3	病院薬剤師、開局薬剤師の現状と未来	B(4)-①②
14	早期体験学習	前期および後期に薬剤師・薬学出身者の活躍する施設を見学し、レポートを作成して発表する	A(1)-①②④ A(2)-①②③ A(3)-①② A(4)-①

■ 授業分担者

No.1、2：石井 啓太郎 (学長)

No.3：川北 晃司 (倫理学教授)

No.4：学外講師 (遠藤 一司 日本病院薬剤師会専務理事)

No.5：古澤 康秀 (社会薬学教授)

No.6：学外講師 (気田 博之 協和発酵キリン株式会社 臨床開発センター センター長)

No.7：学外講師 (泉澤 勝弘 エーザイ株式会社商品開発部部长)

No.8：学外講師 (未定)

- No.9 : 高野 伊知郎 (総合臨床薬学教育研究講座教授)
No.10 : 花田 和彦 (薬物動態学教授)
No.11 : 越前 宏俊 (薬物治療学教授)
No.12 : 学外講師 (高山 康信 元厚生省医薬品副作用対策室長)
No.13 : 石川 洋一 (薬学教育研究センター臨床薬学部門教授)

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

授業の出席 (30 %)、課題レポート (30 %)、施設見学・グループ討論の態度 (40 %) に より総合的に評価する。

■ 参考書

- 『ヒューマニズム・薬学入門』 日本薬学会 編 (東京化学同人)
『社会と薬学』 日本薬学会 編 (東京化学同人)
『早期体験学習ガイドブック』 村田 正弘 編 (ネオメディカル)
『薬学概論』 沢村 良二 編 (南山堂)
『薬学概論 改訂第 4 版』 辰野 高司 他 編 (南江堂)